

○川上（陽）委員 自由民主党福岡市議団を代表して、最重度の知的障がい者への支援について、野多目地区の渋滞対策についての2点について質問する。初めに、最重度の知的障がい者への支援について尋ねる。市内で重い知的障がいの子どもを支えている親から、入所サービスが受けられないことについて、どうにかならないかという相談を受けた。その子どもは、食事や排せつ、日常の移動や入浴などの基本的な生活動作を1人で行うことが困難な最重度の知的障がい者に該当するが、このような人たちは、言葉による意思疎通が難しく、行動障がいやこだわり行動、睡眠障がいなどを伴うケースも多く見られるそうである。最重度の知的障がい者を支える家族は、日頃から大変な苦勞をしている。特に、親が在宅で24時間体制の介護を続けるケースが多く、精神的、身体的に限界を迎えている家庭も少なくない。最重度の知的障がい者の成長とともに身体介護の負担も増大し、親が年を取るとともに介護が難しくなる家庭も多くある。相談を受けて、私も詳しい実態を調査したが、本市では、必要な支援を受けるための入所施設が圧倒的に不足しているようである。近年、本市では、重度障がい者向けのグループホームの数は増えているものの、最重度の知的障がい者の受入れは難しく、特に、行動障がいを伴う場合には対応できる施設が極めて限られているため、自宅での介護が長期化し、家族の負担がさらに増すという悪循環が生じている。親たちの悩みで特に深刻なのは、親亡き後の問題である。自分たちが倒れたら、この子は一体どこでどうやって暮らしていくのか、せめて受け入れてくれる先さえ決まっていれば、少しは先が見通せるが、明日の見えない不安を抱えながら介護を続ける家族の精神的な負担は計り知れない。今日は、最重度の知的障がい者への支援について、本市のこれまでの取組や今後の対応を尋ねたいと思うが、まずは改めて、障がいを持った全ての人のための支援についての本市の基本的な姿勢を問う意味で、ユニバーサル都市・福岡という理念について尋ねたいと思う。初めに、本市が掲げる「みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサル都市・福岡」とは何か尋ねる。

○川上（陽）委員 以下の質問は、最重度の知的障がい者とその家族への支援が、果たしてユニバーサル都市・福岡の理念に沿ったものであるかという視点で聞いてもらえればと思う。まずは、最重度の知的障がい者の現状である。現在、本市には、最重度の知的障がい者が何人いるのか、18歳未満と18歳以上の人数を10年前、5年前、現在の推移とともに示されたい。

○川上（陽）委員 次に、そのような最重度の知的障がい者を受け入れる施設の現状について尋ねる。現在、市内に最重度の知的障がい者を受け入れる施設は幾つあり、入所、通所、それぞれの定員は何人か、また、空きがある施設の数と受入れ可能な人数について示されたい。

○川上（陽）委員 現在、空いている入所施設は4施設で、受入れ可能な人数は8人とのことである。施設の数や受入れ人数が限られている以上、入所を希望してもかなわない人たちが、多くの待機者になっていると考えられる。そこで、現在、入所や通所を希望しながらも待機している人の人数について、10年前、5年前、現在の推移とともに示されたい。

○川上（陽）委員 待機者の現状について、とても頼りない状況であると感じる。これまでしっかりと待機者の把握をしてこなかったのはなぜか尋ねる。

○川上（陽）委員 待機者は、10年前、そして現在も約300人いる。これだけの待機者がいるにもかかわらず、10年ごとにしか調査をしていないということは、あまりにも無責任だと言わざるを得ない。通所施設に関しては把握すらしていないようである。この間、最重度の知的障がい者の家族は、先の見えない不安の中でどれだけ心

細い思いをしてきたらどうかということ、ぜひ想像してみたいと思う。では、この待機者の人たちはどの程度の待機期間を要しているのか示されたい。

○川上（陽）委員 入所までの平均が3年とのことだが、その根拠を示されたい。

○川上（陽）委員 これは、入所できた人たちの平均が3年ということであって、実際には約300人の待機者に聞き取りを行わなければ本当の実態は見えないと思うがどうか。

○川上（陽）委員 待機者の家族の人たちの話によると、入所希望者が空きを待つ時間は10年、100人待ちの状況だと言われ、親が死ぬまで入れないという悲惨な声も聞かれる。これが実態ではないか。このような声に対し、表面だけの調査や対応だけではなく、もっとしっかりと向き合うべきだと思うが、所見を尋ねる。

○川上（陽）委員 次に、相談対応についてである。多くの悩みを抱える最重度の知的障がい者の家族は、当然、行政の支援に頼る場面も多く、基幹相談支援センターや区役所等の相談窓口の役割は非常に重要である。そこで、最重度の知的障がい者の入所等に関する相談が、基幹相談支援センターや各区役所にどの程度寄せられているのか、件数を示されたい。

○川上（陽）委員 相談件数をなぜ把握していないのか尋ねる。

○川上（陽）委員 入所等の相談件数は把握すらしていないとのことである。最重度の知的障がい者の家族が置かれている状況を考えれば、わらにもすがる思いで相談に来たことだと思う。その人たちの相談内容や実態を把握せずして、今後の対応は取れるのか。相談の状況を把握するべきではないかと思うが、所見を尋ねる。

○川上（陽）委員 では、入所等の相談があった場合、基幹相談支援センターや区役所などではどのような対応をしているのか尋ねる。

○川上（陽）委員 では、それでも十分な支援が受けられない場合の対応は、これまでどうしてきたのか尋ねる。

○川上（陽）委員 十分な支援が受けられない人たちへの対応は、困難な状況にあるとのことである。現に私が家族から聞いた話では、基幹相談支援センターに相談に行けば区役所に行ってくれと言われ、区役所に行けば相談センターに行けと言われる、仕方がないので隣の区役所に行けば、管轄ではないため自分の区に行ってくれとたらい回しにされるそうである。名指しをするのははばかれるが、他の家族からは、基幹相談支援センターは全く信用していないという意見もあった。このような厳しい声も、今日はあえて伝えておきたいと思う。入所等の相談に関する件数は把握していない、入所施設の待機者が通所施設に入れているかも把握していない、相談に寄り添い対応するはずの基幹相談支援センターや区役所も機能していない、これでどうして「みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサル都市・福岡」と言えるのか。確かに福祉局も、重度障がい者を対象としたグループホームへの独自補助などいろいろと頑張っているのは分かる。しかしながら、最重度の知的障がい者に関して言えば、支援を必要とする人々の声すらすくい上げようという姿勢が見えてこない。ユニバーサル都市・福岡の理念から取り残されているのではないかとさえ感じるが、荒瀬副市長の所見を尋ねる。

○川上（陽）委員 最重度の知的障がい者とその家族が安心して生活できる環境を整備するということは、重要な課題であると認識すべきだと思う。保育園の待機児童のときのように、最重度の知的障がい者の待機者ゼロを

目指す考えはないのか尋ねる。

○川上（陽）委員 施設の整備にはどうしても時間がかかるため、待機者への支援も同時に進める必要があると考える。家族への負担軽減策はあるのか尋ねる。

○川上（陽）委員 例えば、待機者を受け入れたりする事業所に市独自の人件費を支援する、また、受入先がなく困っている人をサポートする仕組みや、優先的に日中一時預かりを利用できるような仕組みなど、さらなる取組が必要だと考えるが、所見を尋ねる。

○川上（陽）委員 日中預かりサービスや短期入所等のサービスもあるが、現場の声としては、いざサービスの利用予約をしても、人手不足を理由に断られるのが現状だそうである。1人では生活できない障がい者の数は年々増えているのに、サービスを提供できる施設やスタッフの数が圧倒的に足りていない。最重度の知的障がい者は扱っても難しいため、スタッフの人たちの障がいへの理解や知識の向上が求められている。ぜひこのような現場の声に真摯に向き合い、対応してほしいと思う。まずはしっかりと最重度の知的障がい者の現状を把握すること、必要な施設を計画的に整備すること、そして何よりも障がい者とその家族の困ったことや不安にしっかりと寄り添うことのできる相談体制をつくる必要があると考えるが、最後に市長の所見を尋ね、この質問を終わる。

○川上（陽）委員 次に、野多目地区の渋滞対策について尋ねる。野多目地区、とりわけ福岡外環状道路、国道202号バイパスのガンセンター入口交差点における渋滞対策については、長年にわたって我が会派から要望を行い、これまでも様々な対策が講じられてきた。しかしながら、同交差点における交通渋滞は全く改善されていない状況であることから、私は令和4年9月議会において、抜本的な交差点の改良と実効性のある対策に速やかに着手するよう質問をした。当局からは、本市が率先して福岡外環状道路の管理者である国をはじめ関係機関と連携しながら、スピード感を持ってしっかりと取り組むとの答弁があった。そこで、この質問以降、本市における取組状況や国などの関係機関の動き、さらには今後の展開について改めて質問したいと思う。6年1月に、私は国道事務所の所長と面談し、野多目交差点の改良対策について意見交換をした。所長からは、まずは地元から要望書を出してほしい、地域住民の意見がまとまれば、ハード対策に着手できるということであった。このことを市に持ち帰ったところ、市としては、前向きに検討するに当たり、まずは渋滞要因の詳細な分析が必要とのことで、この1年間、市は現地の詳細な実態調査を行ってきたと思う。そこで、市が行った実態調査の内容と具体的な結果について尋ねる。

○川上（陽）委員 一方、国や高速道路公社においては、交差点改良といったハード対策を行う前に、改めてもう一度、交通誘導などのソフト面での対策を行いたいとのことであった。そこで、この1年間、ガンセンター入口交差点における渋滞について、国や高速道路公社が取り組んだ内容と具体的な結果について尋ねる。

○川上（陽）委員 これまで福岡県交通渋滞対策協議会においてソフト面での渋滞対策を検討してきたが、状況については芳しくなかったとのことである。そのため、私は今月1日に再度国道事務所を訪ねて要望した。所長からは、今後の抜本的なハード対策を検討するに当たり、福岡市長名で要望書を提出してほしいとのことであった。そこで、私は今月10日に、まずは、野多目校区自治協議会の会長はじめ役員の人たちと市長宛てに要望書を提出したところである。それでは、市から国に対してはどのような対応を取ってきたのか尋ねる。

○川上（陽）委員 今月12日に福岡県交通渋滞対策協議会が開催されたと思うが、同交差点における渋滞対策について、どのような意見があったのか尋ねる。

○川上（陽）委員 ガンセンター入口交差点については、もう1つ大きな問題がある。何度も議会で訴えてきたことだが、事故が頻繁に発生しているということである。人身事故件数について、過去5年間の平均は年間で72件、これは実に5日に1回の頻度で人身事故が発生していることになる。この異常な事故件数と慢性的な渋滞の根本的な原因は一体何か。交差点の形状そのものに問題があるとは言いようがない。事故の不安や渋滞に悩まされている周辺地域の人たちは、早くからそのことに気づいており、私もこれまでに何度も繰り返し抜本的な対策を要望してきたところである。ガンセンター入口交差点は、渋滞対策と事故対策を両輪で進めていく必要がある。そのためには、ハード面による抜本的な交差点改良しか方法はないと思うが、所見を尋ねる。

○川上（陽）委員 国はこれから検討に入ると思うが、市民の命とよりよい生活環境を守るために、市が率先して用地買収も視野に入れた抜本的な交差点改良に速やかに着手してほしいと思うが、局長の明確な答弁を求める。

○川上（陽）委員 来年度から国道385号及び外環状道路の抜本的な交差点改良の検討に着手することに加え、市は先行してでも実施していくとの力強い答弁があった。大変ありがたいことである。周辺地域の人たちは、子どもたちが、あるいは我が身がいつ事故に巻き込まれるのかという不安をずっと抱えている。引き続き国をはじめとする関係機関との協議を進め、速やかに実効性のある対策を行うよう改めて要望し、質問を終わる。